

【事例発表】

団体名：地球っ子クラブ 2000

<http://chikyukkoclub2000.com/>

＜団体紹介＞

地球っ子クラブ 2000 は、「外国につながる子どもたち（＝すべての子どもたち）が自分らしさを活かして日本社会で輝けるように！」を大きな目標に、設立以来、子どもたちからのメッセージを受け取り、試行錯誤を繰り返しながら、母語を大切にすることなども含め、その成長を応援してきました。現在は、地球っ子クラブ 2000 を中心として、その後設立した2つの団体が協力し合い、分担し合っ、多文化共生の視点を持つ地域の日本語教室活動を展開しています。

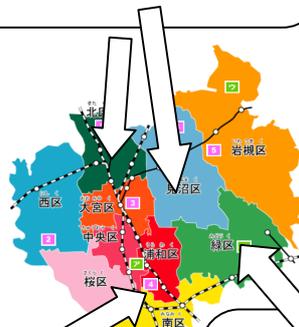
地球っ子クラブ 2000 (2002 年～)

体験を軸にした日本語教室・親子参加型

- ①七里教室 第2・4土曜日 10:00～
- ②植竹教室 第2・4土曜日 13:30～



ボランティア体験（社会貢献）



子どもたちは造形教室。後方はママ達



最後は、ママ達の言葉で絵本の読みきかせ

多文化子育ての会 Coconico (2009 年～)

多文化家族の子育ての仲間づくり、情報交換、
社会参加の足がかりを作る場

第1・3・5月曜日 10:30～14:00



図書館での読みきかせ（中国語）



日本人グループと多言語おはなし会打ち合わせ



スリランカの絵本を使い自国の紹介

てんきりん (事務局) (2005 年～)

多文化・多世代の学びの場

にほんご畑／多文化みんなの勉強部屋／絵本の勉強会／多文化カフェ／絵を描こう！／他

＜文化庁の委嘱事業Bプログラムによる連携事業の進展＞

h25 外国人保護者向け懇談会…七里公民館／多言語おはなし会…南浦和図書館／文化紹介…チャレンジスクール

h26 教員研修会3回…市教育研究所／外国人保護者向け懇談会…東宮下小、七里公民館／多言語おはなし会…南浦和図書館／文化紹介…小学校チャレンジスクール／ボランティア体験…NPO エコエコ、大崎動物園

h27 教員研修会4回…市教育研究所／外国人保護者向け懇談会…東宮下小、七里公民館、保育園、埼玉県教育局／多文化子育て地域懇談会…東宮下小、七里公民館、市保育園／多言語おはなし会…南浦和図書館、大宮図書館／文化紹介…小学校チャレンジスクール／講演会4回…市教育委員会／ボランティア体験…市博物館／自然体験…NPO エコエコ

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラムB

ポスター
セッション

事業名称	多文化ハッピープログラム『地域社会とつながる日本語教室～かかわる ことは かわること～』			
地域の課題	外国人保護者が学校や子どもの状況を知らない。また、地域社会や学校も、外国籍住民や子どもたちの置かれている立場を知らない。これが、子供たちの力を充分伸ばせない原因にもなっている。よりよい教育環境を作るためには、外国人が日本語を習得すると同時に日本社会も変わっていくという双方向の努力が必要である。			
事業の目的	外国にルーツのある子どもたちが、彼らの持つことばと文化の多様性を活かしつつ能力を発揮して日本社会で活躍できるように、親の日本語学習（教育に関する分野）をサポートし、また、日本社会に積極的に行く機会（ボランティア活動や文化紹介講座など）を作る。同時に、子どもたちを取り巻く学校・地域社会などに働きかけ、お互いが知り合い、理解し合える機会を作っていくなど、外国籍住民と地域社会がつながる双方向の内容とする。			
事業内容	取組1		取組2	
	名称	学校や地域社会につながる日本語教室	名称	<育児で育自>日本で自分らしく生きる！！地域で活躍しよう！！
	目的	親子が学校に関わる言葉を学び、「教わる」だけではない活躍の場を創造する。日本人側の意識変化のきっかけとなるような場の創造を目指す。	目的	外国出身の親子の居場所作り、仲間作り、活躍の場と親の活躍を子供が見る機会作り、当事者の行動範囲を広げると同時に、日本人側の意識の変革をめざす。
	内容	①親子参加の日本語教室 ②保護者が講師となり、得意とすることを日本人に向け発信・教授、共に活動する場づくり。	内容	①出産や子育てについて日本語を学び話し合う ②「多言語おはなし会」「お料理教室」で社会参加。そのための勉強会など
	対象	外国にルーツを持つ親子・家族	対象	外国にルーツを持つ親子、国際結婚の人
	時間	1回2～4時間×9回（全22時間）	時間	1回 2時間×10回（全20時間）
	人数	99人	人数	56人
	取組3		取組4	
	名称	日本人も外国人も共に学び合い、ボランティア活動を企画し、地域に貢献しよう！	名称	～多文化の子どもたちを育てる街をつくるために連携しよう～
	目的	地域の日本人と外国出身者が共に多文化共生をリードする学びと交流の拠点作り。また、外国出身者の居場所、仲間作りの場。	目的	子どもたちの教育環境の改善をめざして、地域の多文化共生を進める。特に学校関係者の参加と協働を目指す。
	内容	①にほんご畑・多文化カフェ ②外国出身の若者の学びの場「多文化みんなの勉強部屋」	内容	①教職員夏休み希望研修+『教師力』パワーアップ講座②講演会・石井恵理子氏「子どもの育ち」・春原憲一郎氏「多文化の街作り、人作り」
	対象	外国出身の住民、親子。地域の日本人	対象	学校関係者、一般市民、外国出身者、他
	時間	1回 2時間×10回（全20時間）	時間	1回 2時間×5回（全10時間）
	人数	60人（他子ども11人）	人数	95人
連携体制	Bプログラムに移行後、行政・学校関係に積極的に働きかけてきた結果、子供たちの教育環境を改善する連携が進んだ。①さいたま市教育研究所…教師研修②公立図書館等…多言語おはなし会③七里地区の公民館や小学校…多文化保護者のための学習会。地域の日本語教室として、「外国出身者と共に多文化共生の街作り活動！」が認知され、埼玉県グローバル賞授賞、埼玉県多文化共生推進委員委嘱、さいたま市長との面会実現。			
成果と課題	外国につながる子供たちの教育環境改善のために、地域の日本語教室として出来ること（親が子どもの教育に主体的に関われるようにすること、学校関係者や地域社会全体が子どもの置かれた状況をより理解すること、母語母文化を子供たちが大切に思える社会作りなど）をやってきた。しかし、本当に効果のある支援のためには、フリースクールや、プレスクールなど、子供たちが学習に効果的に向かい合える体制作りが必要である。			
皆様へ一言	多文化の子どもたちの教育環境や体制について、皆様と情報交換ができることを楽しみにしています。自主作成の教材『親子の日本語活動集』『子育ての話題集』について、ご意見をお願いします。			